

「国際大会に関して押さえておくべき主要トピック」講座

2-2 イベントサステナビリティとスポーツSDGs

環境に配慮した国際大会運営の実現に向けた考慮事項

イベントサステナビリティとスポーツSDGs

サステナビリティ

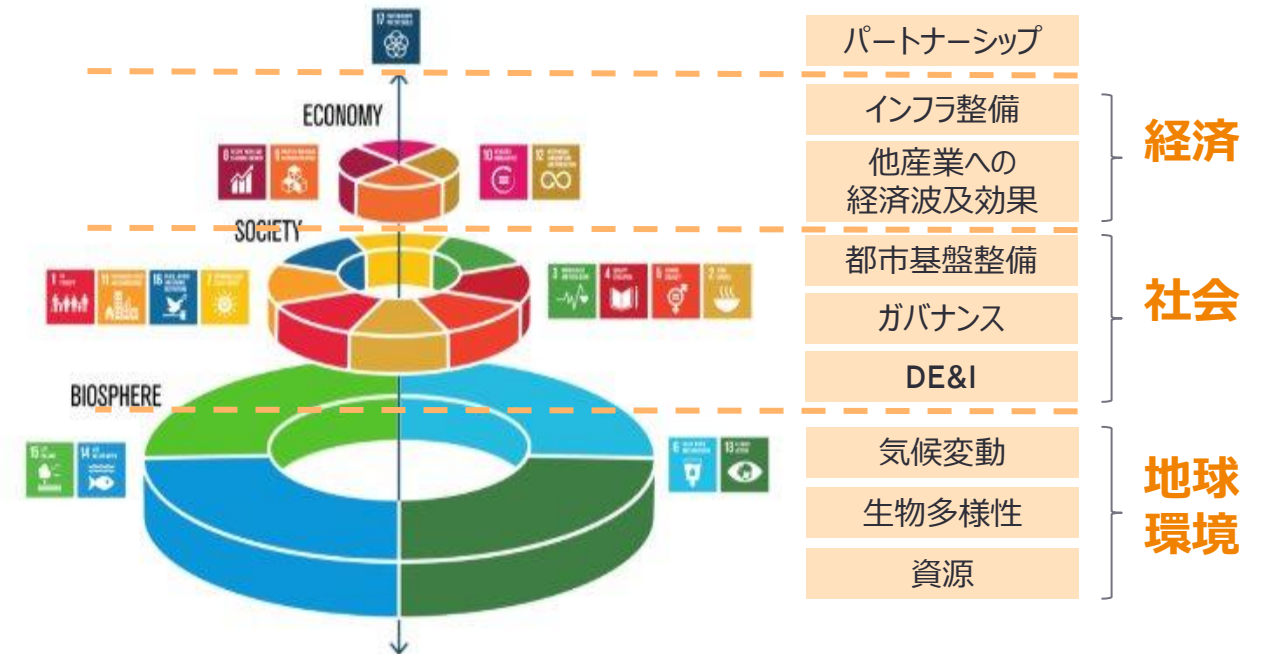
SDGsとは？

- ▶ 「誰一人取り残さない」という理念のもと、「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット、および、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標のこと



SDGs理解のためのウェディングケーキモデル

- ▶ SDGsの構造（17ゴール）を理解する考え方として、各ゴールについて、取組内容の観点による3層（地球環境、社会、経済）と、取組方法の観点による「パートナーシップ」で整理したウェディングケーキモデルがある



【出典】 [wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev](#)



本章ではこの3つの重要項目＋パートナーシップの分類に則り、イベントサステナビリティについて解説

サステナビリティ

イベントサステナビリティとスポーツSDGsの全体像

- ▶ 国際競技大会はその規模や影響力の大きさから、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の達成に向けた大きな契機となりうる

パートナーシップ

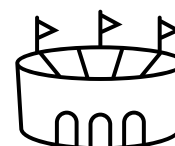
パートナーシップ	関係ステークホルダーとのパートナーシップ
----------	----------------------



大会開催にあたり、関係するステークホルダー（主催者、開催都市、競技団体、企業、地元住民等）をしっかりと巻き込んでいるか？

経済

インフラ整備	大会開催に伴うスタジアム整備、バリアフリー化
他産業への経済波及効果	大会開催に伴う複数の経済効果(例：観光業)



バリアフリー化などに配慮した会場整備をおこなうことで、インフラを再整備しつつ、新規雇用の創出なども可能になっているか？

社会

都市基盤整備	生活水準向上
ガバナンス	ガバナンス体制の構築、透明性確保
DE&I	ジェンダー問題、アクセシビリティ対応

地球環境

気候変動対策	脱炭素に向けた取組と情報開示
生物多様性対策	会場周辺地域との連携した生物多様性の保護・回復、環境アセスメントなどの実施
資源	3R、アップサイクル、食品ロス削減等の環境に配慮した取組



IOCの取り組み状況

IOCはSDGsの考え方を反映した「[Sustainability Strategy](#)」を策定し、オリンピック競技大会での持続可能性要件を定義

オリンピックアジェンダにおける提言

- ▶ 全15のうち2つについて、持続可能性に関連した提言を行っている

提言2「持続可能なオリンピック競技大会を促進する」

→競技大会への持続可能性の組み入れ（クライメイトポジティブなオリンピックの実現、人権対策、自然・文化保護）、開催地コミュニティへの持続的な利益への取組

提言10「国連の持続可能な開発目標の重要な実現手段としてのスポーツの役割を強化する」

→スポーツ・パートナーシップの活用（SDGsに沿った、競技団体等への支援など）

5つの重点領域（Focus Areas）

- ▶ 5つの重点領域を定義し、オリンピック競技大会のオーナーとして、競技大会での持続可能性の要件を定義

①インフラと自然



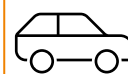
スポーツ施設及びオフィス等の屋内外施設の開発・運営

②調達と資源管理



製品・サービスの調達及びライフサイクルを通じたリソース管理

③モビリティ



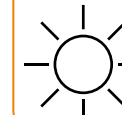
ローカル・グローバルの人・物の移動

④労働



労働者・ボランティア・請負事業者に提供される労働条件と機会

⑤気候変動



直接的・間接的な温室効果ガスの排出管理と気候変動への適応

サステナビリティ：パートナーシップ

取組例①：Sport for Sustainable Development(#Sport4SD)

#Sport4SDサミットは、スポーツを通じてSDGs達成を加速する国際的なパートナーシップの場として開催され、IOC、各国政府、国際機関、企業が協力し、5分野10項目に対する具体的なコミットメントを発表した

サミット・パートナーシップ概要

- ▶ パリオリンピック開会式前日にIOCとフランス大統領府が共催
- ▶ 各国政府、国際機関、開発銀行、スポーツ団体関係者と
いった多様な人が参加



パートナーシップによるコミットメント

教育と雇用

- 学校教育に運動を取り入れる
- 「1日30分の運動」によって健康と学力向上
- 国家主体でスポーツを若者雇用と職業訓練に利用



健康と栄養

- 健康に対するスポーツの効果を広報する
- 地域スポーツ等のプログラムを拡充・促進
- N4Gサミットに向けた栄養支援の呼びかけ



平等と包括性

- 「ジェンダー平等のためのスポーツ連合」に参加し、アクションを起こす
- 運動プログラムの参加機会の平等化促進
- 移民対象のスポーツプログラムの展開



資金調達とインパクト測定

- パリ協定の公約達成やスポーツSDGsの研究のため、「Finance in Common」連合内のインパクトファンドに資金を拠出



持続可能性とレガシー

- パリ協定に基づいたスポーツ関連の環境負荷を軽減
- 各取り組みに参加することで、連携を強化





取組例②：RWC2019

国際スポーツ大会を機に地域のインフラ整備がおこなわれ、大会にかかる新規雇用が創出された
また大会実施により、スポーツエンタメ業界のDX化が促進された他、観光業界への経済波及効果も確認された

具体的な取り組み

1 新規雇用の創出

- ▶ 大会の準備や開催を機に、約4.5万人の新規就労者を創出
- ▶ 大会期間中の就業経験によって得た技能によって、中長期の雇用拡大につながった

2 インフラ整備

- ▶ 防災拠点の一面も持つ、釜石鵜住居復興スタジアムの整備
- ▶ スタジアムを含む会場周辺のバリアフリー化の推進
- ▶ 大会後も継続して利用可能な公共施設の整備につながった

3 スポーツ・エンタメ業界のDX化の基盤作成

- ▶ 東京スタジアムと横浜国際総合競技場における、メディア関係者の本人確認に顔認証システムを導入し、スムーズかつ正確な本人確認を実現
- ▶ 「マルチアングル視聴」や「ライブビューイング」など5Gを用いた技術を、日本で初めて一般観客向けに提供

4 観光産業や地域社会への経済波及効果

- ▶ 全国12会場、55の公認キャンプ地で大会が開催
- ▶ 1旅行あたりのRWC 2019 訪日客の消費金額は2018年訪日観光客の4.6倍
- ▶ 宿泊数のうち25%は開催都市以外での宿泊

出典：THE ECONOMIC IMPACT ラグビーワールドカップ2019™



取組例③：ガバナンス確保に関する指針やガイドライン

スポーツ庁や東京都は、スポーツ大会の運営に際しどのようにガバナンス面を担保していくかをガイドラインとして示している

スポーツ庁

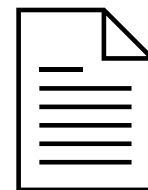


大規模な国際又は
国内競技大会の
組織委員会等の
ガバナンス体制等の
在り方に関する指針*1

- ▶ 大規模スポーツ大会の組織委員会等を対象としたもの
- ▶ 大会の準備・本番・終了後等に渡り、ガバナンス観点で取り組むべきことをラインナップした指針（以下一部抜粋）



東京都



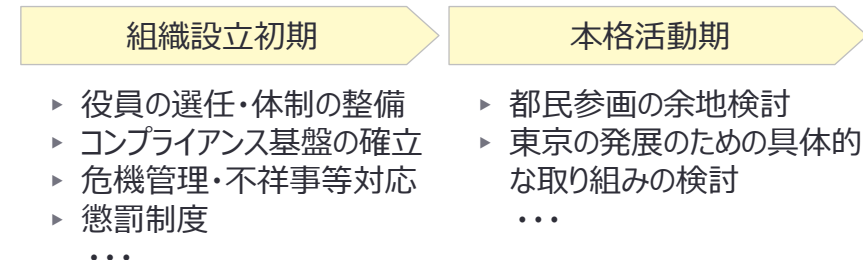
国際スポーツ大会への
東京都の関与の
ガイドライン*2

- ▶ 東京都が、国際スポーツ大会の大会運営組織（設立予定含む）にどう関与するかを示す運用ガイドライン

ガイドラインの前提（基本的な考え方）



東京都による関与内容（一部抜粋）



出典*1：スポーツ庁『大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針』²³

出典*2：東京都『国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン』



取組例④：東京2020大会 人権問題に関連した取組

大会開幕直前に東京2020D&Iアクションを宣言し、IOC・IPCや東京都、国、パリ2024組織委員会の賛同を得ながら活動を実施。最終的に400以上の個人・団体に宣言が広がり、様々な取組が実施された

D&Iアクション



私たち一人ひとりが、人種、肌の色、性別、性的指向、性自認、障がい、言語、宗教、政治的又はその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別がなく、互いを認め合い、誰もが自分らしく生きられる共生社会を目指します。（[東京2020D&Iアクション -誰もが生きやすい社会を目指して-](#)）

活動例（一部）

誰もが利用しやすい環境

- ▶ Tokyo 2020アクセシビリティ・ガイドラインに基づき、全ての人の会場までのアクセシビリティを確保
- ▶ 全競技会場及び選手村に多機能なトイレと補助犬用トイレを設置
- ▶ 競技会場に礼拝スペースを設置

心を込めたおもてなし

- ▶ 東京2020ロボットプロジェクトとして、ロボットによる物品運搬、誘導等を実施し、車いすの方のストレスフリーな入退場・観戦をサポート
- ▶ 各スタッフが人権に関連した事案に対し適切に対応ができるよう、ガイドラインを作成・運用

【参考】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、[東京2020大会における「多様性と調和」とジェンダー平等の取組の概要](#)

きめ細かなサービス

- ▶ 選手村に女性アスリートの総合サポートを行う「女性アスリート科」を設置（大会史上初）
- ▶ 食生活や宗教など、多様性に配慮した食事を提供
- ▶ 車いす使用者エリアを設置するなど、多様性に配慮したセキュリティチェックを実施

競技で一人ひとりが輝く

- ▶ 大会参加者や開会式で旗手を務める選手の女性比率を向上
- ▶ 男女混合種目の採用
- ▶ 競技種目及び選手枠数の改善
- ▶ 審判や技術役員のユニフォームをスラックスに統一し、ジャケットやネクタイ等のアイテムを自由選択制に変更

取組例⑤：ロンドンオリンピック



国際スポーツ大会を契機に行われる都市基盤の再整備には教育水準の向上や雇用創出の効果があり、地域住民の根本的な生活水準の向上につながる

ロンドンオリンピックにおける都市基盤の再整備

ロンドン五輪ではイーストロンドンの再生をレガシーの1つとして位置づけ、5年かけて包括的な再開発を実施

※イーストロンドン：かつて工業地帯として反映するも、ロンドン五輪開催決定時は、ロンドンで最も失業率が高い貧困地帯

具体的な取り組み

1

生活水準の向上

- ▶ 貧困や犯罪といった社会的剥奪が深刻な地域
- ▶ 教育行政の改善によって学力が向上し、雇用機会が広がったことで、継続的収入の獲得や貧困からの脱却につながった

2

社会構造の改善

- ▶ 人口増加による住宅不足と家賃高騰の問題に対し、選手村を大会終了後に一部改修して住宅として提供、長期間にわたって国民に利用させることを前提とした建築計画を立てた
- ▶ 学校での運動習慣の促進等の取り組みによる、国民の生活習慣改善に取り組んだ

3

エネルギー改革

- ▶ イーストロンドンに設置された選手村のコンクリート材は、標準的なコンクリートと比較し、40%以上の二酸化炭素を削減
- ▶ オリンピック公園の整備をはじめとした緑化政策

4

住み続けられるまちづくり

- ▶ 大型ショッピングモールの建設による、生活利便性の向上
- ▶ 交通網再整備による都心部へのアクセス改善
- ▶ 大会後の地域住民の生活を念頭に置いて整備された



取組例⑥：ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会

ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会の開催地になったことを契機に、景観、にぎわい、水環境に優れた「きれいな海」の実現に向けた活動を開始し、その取り組みは高く評価されている

水質改善・環境保護

大会実施以前に、生物が棲むことも困難と言われていた横浜港の環境整備に取り組む

- ▶ 下水道整備事業
- ▶ 継続的な横浜港の環境保全への取り組み
- ▶ 海底清掃で収集するゴミの減少

ブルーカーボンオフセット

大会参加者の会場までの移動により生じるCO2排出量を金額に換算し、環境協力金でオフセット

- ▶ CO2排出量40tオフセット
(=約35万円の環境協力金を充当)
- ▶ わかめの栽培等による藻場や海中林の育成に寄与

間伐材を利用した記念品・グッズ作成

横浜市の水源地である山梨県道志村の水源地林の間伐材でパートナー企業への感謝状を製作

- ▶ スポーツを通じた環境啓発活動

リサイクル事業

パートナー企業と協力し、ペットボトルの水平リサイクルやスポーツウェアのリサイクルを実施

- ▶ 2024年大会において、
- ▶ 約1200本のペットボトルを回収
- ▶ 約100枚のスポーツウェアを回収

Sustainability Commission※より、「GOLD」の認証を受賞



※World Triathlonのサステナビリティ認証機関



取組例⑦：FIFAのカーボンニュートラルのための取り組み

FIFAはCOP26で気候戦略を発表し、2040年までにカーボンニュートラルに準拠することを目指し、4つの行動領域を設定、3つのゴールを掲げた

4
つの
行動
領域

1

教育



サッカーに関わる人々にその影響と解決策を啓発

2

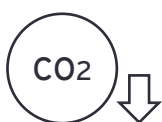
順応



気候変動の影響に対応するための柔軟性やレジリエンスを持たせる

3

削減



FIFAとサッカー界の脱炭素化によりパリ条約に貢献する

4

支援と投資



サッカー関係者に対し、解決策を提示したりそのために必要な投資をする

3
つの
ゴール・
取り
組み

- ▶ FIFA大会の二酸化炭素排出量を算出し、インパクトをモニタリングできる体制を整備
- ▶ その上で、2030年までに50%減、2040年までにカーボンニュートラルに準拠するため、根拠に基づく削減目標を設定（排出は、高品質なカーボンクレジットでオフセット）
- ▶ FIFA大会の開催コンセプト、要件、規制等をレビューするとともに、大会や予選運営でのCO₂排出量の算出基準を定義（大会運営での排出量はオフセット）
- ▶ 新たに気候アクション・プログラムを開発し、全大会で導入。サポーター啓発も展開
- ▶ 世界のサッカー界全体でのCO₂排出量や、気候変動によるインパクトの調査を実施し、加盟組織や下部組織に対する気候変動問題の啓発を実施
- ▶ 「フットボール気候ハブ」を設立し、気候変動適応・緩和等でのガイドラインを策定

1 気候変動対策のための組織準備

2 気候変動の影響から大会を保護

3 気候レジリエントなサッカー界の発展

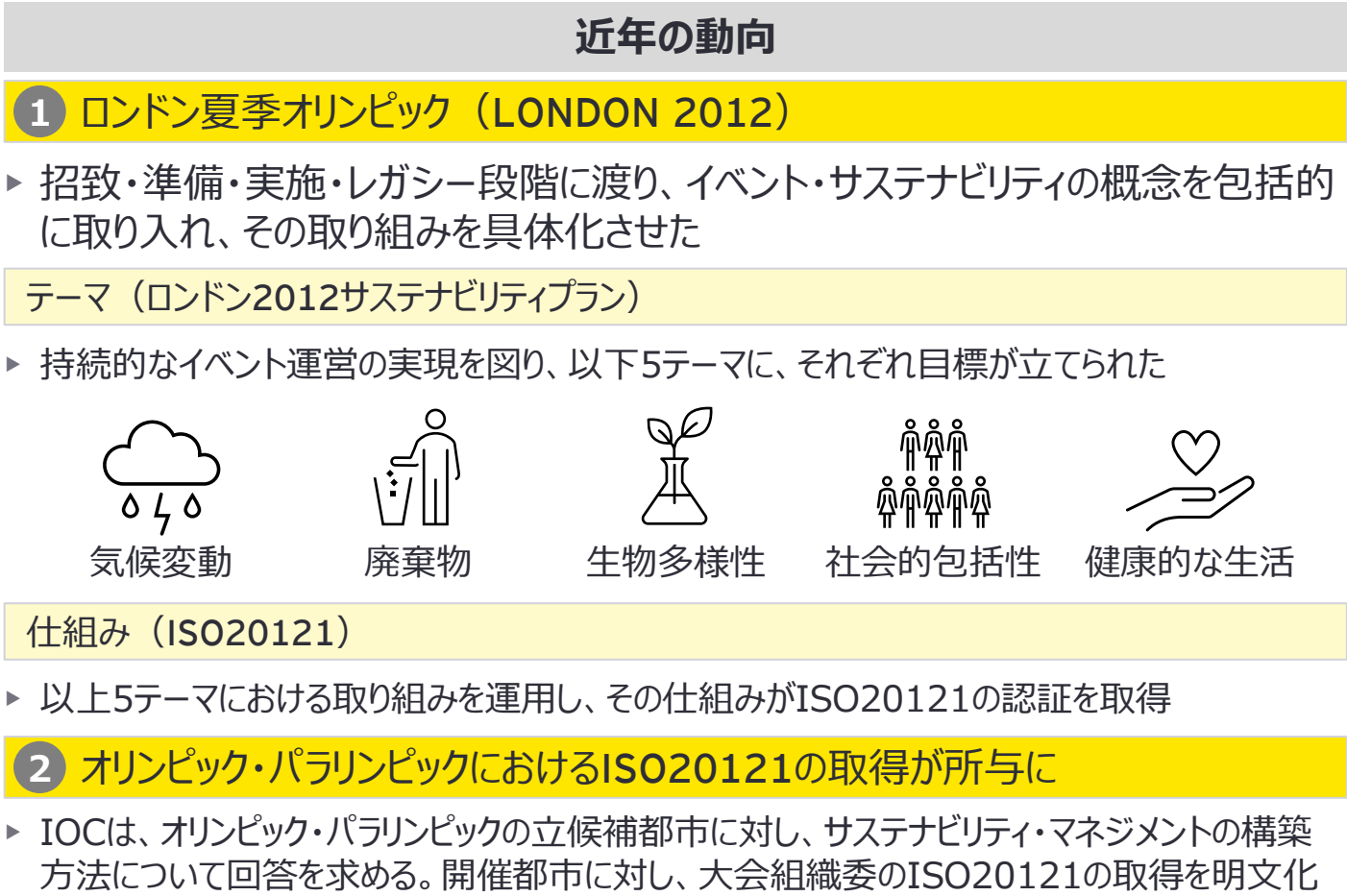
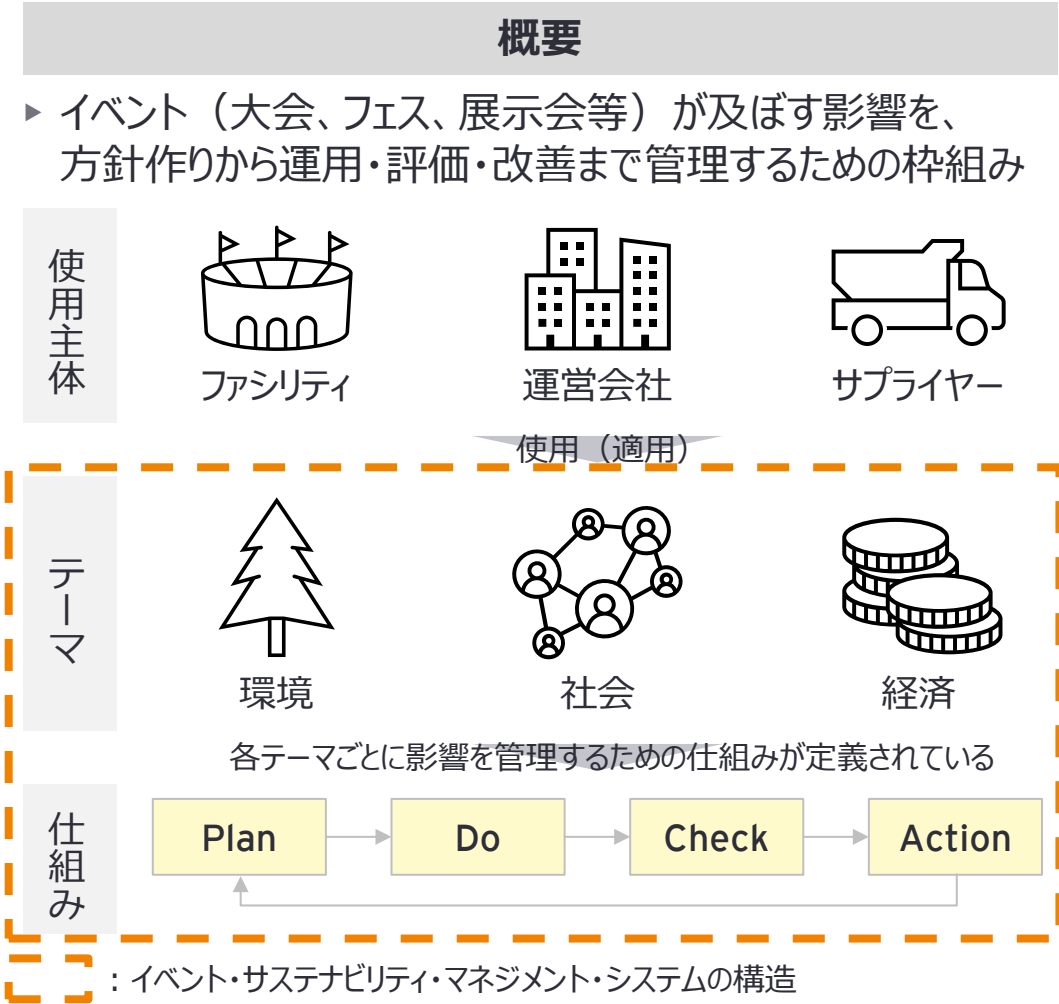
環境に配慮した国際大会運営の実現に向けた考慮事項

イベント・サステナビリティ・マネジメント・システム

手引き P.76

イベント・サステナビリティ・マネジメント・システムの全体像

イベントが及ぼす環境・社会・経済等に対する影響を、構想からレガシー段階に渡り、包括的に管理するための枠組みであり、ロンドン夏季オリンピックでの実装・成功を起点に、以後のイベントも準じるようになった。



イベント・サステナビリティ・マネジメント・システム



イベント・サステナビリティ・マネジメント・システムの具体例（ISO20121）

- ▶ イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム（ESMS : Event Sustainability Management Systems）
- ▶ イベント運営における社会的責任と環境マネジメントシステムに関する要求事項を定めた国際規格

経緯

- ▶ 2012年：ロンドン夏季オリンピックがISO20121の認証を受けたことにより、世界各国で知られるようになった
- ▶ 2019年：東京2020組織委員会が、ISO20121の認証を取得したと公式に発表

狙い

社会・経済・環境等の観点を考慮した、持続可能なイベント開発・運営を実現するための仕組みを提供すること

構成

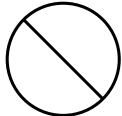
1章	範囲		
2章	規範引用規格		
3章	用語及び定義		
4章	組織の理解		
5章	方針の決定	Plan	要求事項
6章	分析や目標・計画の策定		
7章	支援	Do	
8章	計画の実行	Check	実現方法
9章	進捗確認・結果の振り返り	Act	
10章	改善		
付属書	利用手引き等		

環境に配慮した国際大会運営の実現に向けた重要な取り組みポイント

手引き P.107

重要な取り組みポイント①：調達コード

大会運営における各種調達に際し、運営主体としての社会的責任・社会の持続可能性の推進といった役割を果たすため、環境・人権・労働・経済等に配慮した調達を行うための指針である、調達コードが策定される。

趣旨		具体的な取り組み（第20回アジア競技大会）	
概要 狙い 本指針の側面	各種調達に際し、価格や納期だけでなく、環境・人権・労働・経済等の持続可能性も満たすものだけを選ぶための指針	第20回アジア競技大会では、持続可能な大会運営を目指し、調達コードを策定した。契約者は、誓約書・チェックシートの提出が必須	
	大会運営での物品・サービス調達において、経済合理性・持続可能性の双方に配慮した調達を行うことで、以下2点を果たす。		
	1社会的責任 大会の運営主体としての社会的責任を果たす 2持続可能性の推進 広く社会に持続可能性を重視する姿勢が定着するよう促していく	環境	▶ 省エネの推進（3Rの推進）再生可能エネルギーの推進 ▶ 廃棄物の分別・重量データ提出、フードロスへの対策 等
	ネガティブな影響の防止	人権	▶ 差別やハラスメントの禁止 ▶ 調達コード違反の疑いを受け付ける、通報窓口の設置 等
	法令の遵守、大気・水質汚染防止、差別の禁止等	労働	▶ 児童労働・強制労働の禁止（就業年齢・賃金等の遵守） ▶ 遵守状況の確認とモニタリング、必要に応じた改善措置 等
	ポジティブな影響の促進	経済	▶ 贈収賄や談合などの不正・反競争的取引の排除 ▶ 地域経済の活性化に配慮した調達 等
	3Rの推進、女性参加の促進、地域経済の活性化等		

環境に配慮した国際大会運営の実現に向けた重要な取り組みポイント

手引き P.23

重要な取り組みポイント②：カーボンオフセット

スポーツ大会の開催に伴い不可避に発生する温室効果ガス排出については、ガスの排出削減・吸収量を相殺し、総排出量を実質ゼロ（カーボンニュートラル）とする取り組みが推奨される。

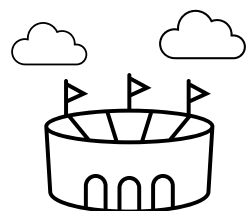
趣旨

カーボンオフセットとは・・・

自らの活動に伴い排出する CO₂等の**温室効果ガスを算定し、減らし**、カーボンクレジット等を使用し**オフセット(相殺)する**、ことを指す。

カーボンオフセットのイメージ

① 依然残る排出



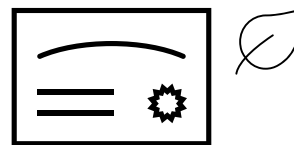
排出対策を講じても
その発生が避けられない
温室効果ガスが一定存在

② CO₂の吸収・削減活動



森林保全・植林や
省エネ・再エネ利用に
よるCO₂削減や吸収
の取り組みを実施

③ クレジットの購入と無効化



②の取り組みをした事業体
からクレジットが発行。
これを購入後、無効化する
ことで排出量を相殺する

取組事例（東京2025世界陸上）

東京2025世界陸上では、大会で発生する温室効果ガスのうち削減対策を講じても避けられない排出分について、カーボンクレジットを活用した、温室効果ガス排出削減プロジェクトに貢献する取組（カーボンオフセット）が行われた。



カーボンクレジット提供
（約400t-CO₂分）
※2025年12月現在の
算定数値



- ▶ インドネシアの森林保全事業で生み出されたボランタリー・クレジットを活用（カティンガン・メンタヤプロジェクト）
- ▶ 日本で開催されるスポーツの国際大会において、ボランタリー・クレジットを活用したカーボンオフセットが行われるのは、これが初めて
- ▶ 準備期間も含めた大会期間中にガスや燃料のエネルギー使用に伴って排出する温室効果ガス（SCOPE 1）を相殺

環境に配慮した国際大会運営の実現に向けた重要な取り組みポイント

重要な取り組みポイント③：廃棄物の削減

スポーツ大会の開催に際し、発生する大量の廃棄物について、そもそも廃棄物が出ないような運営上の工夫をする等して、削減を進めていくことが推奨される。

具体的な取り組み（湘南国際マラソン）

取り組み

1 マイカップ・マイボトル方式

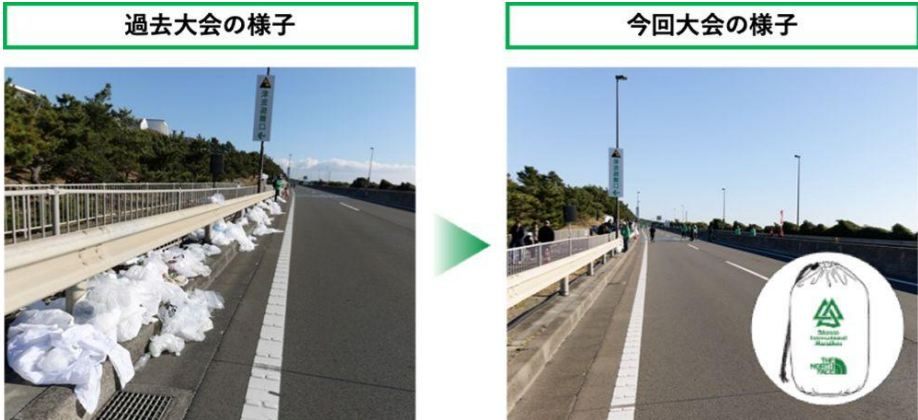
約200カ所の給水ポイントにおいて、給水用の紙コップを使わず、できるだけマイカップやマイボトルを持参して使うよう呼びかけた



従来大量に紙コップのゴミが出ていたところ、これがゼロに

2 クリーンスタートプラン

出走者がスタート時に着用するアウターについて、従来使い捨てのレインコートやポリ袋を使っていたところ、出走者個人の防寒具を使うように変更した



沿道に大量のレインコート・ポリ袋が捨てられていたが、これもゼロに

成果

約9トンのゴミ削減を達成

- ▶ 2019年大会：約11.5トン
- ▶ 2024年大会：約2.8トン

